

被爆78年

ほっかいどう

反核医師・歯科医師の会

第69号 (2023年10月28日)

発行 核戦争に反対する北海道医師・歯科医師の会
http://northhankaku.web.fc2.com/
事務局 〒063-0061 札幌市西区西町北19丁目1-5
勤医協札幌西区病院医局内
☎011-663-5711 Fax011-666-4119



反核医師のつどい

全国から200名余が参加 オンライン併用

第33回「核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい」(以下、反核医師のつどい)が、9月23日・24日の2日間、札幌市中央区のANAクラウンプラザホテル札幌で開催され、医師・歯科医師69名、医系学生10名をはじめ、全国29都道府県から現地参加151名(講師、要員ふくむ)、オンラインで55名が参加しました。主催は核戦争に反対する医師の会(PANW)と反核医師のつどい現地実行委員会。

1987年8月に第1回の反核医師のつどいが東京で開かれて36年ですが、北海道では2004年、2013年につづいて10年ぶり3度目の開催となりました。昨年11月の本会総会で開催を決定し、12月13日に第1回現地実行委員会をオンライン併用で開催し、9回の実行委員会をへて、当日を迎えました。

やや難航したのはメインテーマの決定でした。前回(10年前)は「平和憲法なまら(すごく)いいでないかい 核兵器と原発 ダメだべさ みんなでやればできるっしょ」と北海道弁をちりばめたものですが、議論のなかで「自然と共生してきたアイヌに学ぶことを入れよう」ということで、「核兵器も核のごみもないピリカ・アイヌモシリ(美しく静かなる大地)を未来へ」に決定、チラシ

にもアイヌの文様とシマエナガなどの動物写真(小泉茂樹先生提供)を入れて北海道らしいものとなりました。また、アイヌの文様入りのクリアファイルを本会から現地参加者にプレゼントしました。

名義後援として、日本医師会、カトリック札幌司教区正義と平和協議会、医療九条の会・北海道などから承諾が得られ、今回はじめて北海道医師会から祝電、北海道保険医会からはメッセージをいただくことができました。

1日め 記念講演、教育講演、若手交流企画

1日目の午後2時から始まった開会全体会では平野哲夫 現地実行委員長が歓迎のあいさつ。中満泉



開会全体会の様子 = 9月23日

主な内容

- ◇第33回反核医師のつどい in 北海道 1
- ◇第35回総会で決まった事項 5
- ◇原水禁世界大会に参加して(紺野濤) 8
- ◇医学誌が共同論説 8
- ◇エッセイ(滝沢章) 9



開会あいさつする平野哲夫実行委員長

さん（国連事務次長・軍縮担当上級代表）などからのメッセージ紹介のあと、元外務省国際情報局長の孫崎享さんが「—ウクライナでのロシアの核兵器使用論台頭をふまへ—核兵器使用をさせないための現状分析と日本の未来」と題して記念講演。孫崎氏は、「核兵器禁止」と叫ぶだけではダメ、背景にある政治を知らなければ、実効ある反対運動とはならない。ウクライナ問題でロシア=悪、ウクライナ=善と二分するのではなく、歴史的背景やNATO（北大西洋条約機構）の東方拡大の問題をみる必要がある。台湾有事、米軍の分析では米軍が負け中国が勝利する、その前提で台湾の人々は現状維持を志向している。日本から徒に危機を煽ってはならない。最後に今の自公政権に任せておいては戦争の危機は高まるばかりで、やはり政府を変えなければならないと結びました。



記念講演する孫崎享さん

続いて教育講演(1)として、ピースポータル共同代表の川崎哲さんが「核戦争の危機のなかで核兵器のない世界をどうつくるか」の講演を行いました。川崎さんは数々の国際的な活動実践に裏付けられた説得力のあるお話で、2017年に採択された核兵器禁止条約（TPNW）と核不拡散条約（NPT）



教育講演(1)での川崎哲さん



教育講演(2)で被爆者としての思いを述べる廣田凱則さん(右)と被爆二世の川去裕子さん(中)、渡部朋子さん(左)

が補完しあって、核保有国が核を廃棄する道すじを作ることに、日本は他のNATO加盟国のように、第2回TPNW締約国会議にオブザーバー参加すべきであることを強調しました。

教育講演(2)は「被爆者運動の継承」をテーマに3人の方から問題提起がありました。まず廣田凱則さん（北海道被爆者協会会長）が北海道の被爆者は200人、被爆者協会に所属しているのは35人で平均年齢は86歳で、語り部ができるのは5人ほどと現状を述べました。つづいて川去裕子さん（被爆二世プラスの会北海道会長）が、同会が2017年に結成され、現在会員数約60人でうち被爆二世が22人、さまざまな活動に取り組んでいることを報告されました。3人目の渡部朋子さん（ANT-Hiroshima 理事長）は広島からオンラインで参加、広島における被爆者運動の継承と平和の創造と題して、ANT-Hiroshimaが行っている多面的な活動を紹介、国際的な取り組みを重視し、核なき世界を目指していることが紹介されました。

このあと、フリータイムとなりましたが、別室で医系学生と若手医療者の交流企画が行われ、オンラインを含めて30名が参加しました。今回、医師や医学生に限定せず同じ医療者として枠を広げたことに大きな意義があったと考えられます。



若手交流企画にはオンライン2名をふくめ30名が参加



北海道のメンバー(話しているのは塩川)

盛り上がった懇親会



懇親会の司会は研修医の鳥井沙南さん(左)と滝沢章さんが担当

1日目の夜はホテル内で懇親会が行われ100名余りが参加しました。北海道の研修医二人(鳥井沙南、滝沢章)が司会、旭川在住の被爆二世である松田ひとえさんによるピアノ

弾き語り(カッチーニのアベマリア、一本の鉛筆)に始まり、中野亮司北海道民医連副会長の乾杯に続いて、医系学生や各地域からの参加者の紹介、講師のあいさつがありました。最後は地元の「即席ドクターバンド」として、土屋芳治さん(北海道合唱団所属)、小泉茂樹

さん、塩川が出演し、全員で「青い空は」と「We shall overcome」を“小声で”合唱し、住江憲勇全国保団連会長の締め乾杯で余韻さめやらぬうちに終了しました。



懇親会で壇上に上がった学生部会のメンバー(話しているのは沼口護さん)



懇親会冒頭で弾き語りする松田ひとえさん



ドクターバンド、左から小泉茂樹さん、塩川、土屋芳治さん

2日め シンポジウムと閉会全体会

2日目はまず次回開催地が決まったばかりの沖縄からの決意表明が樋口豊 PANW 常任世話人からありました。

シンポジウム「放射線被曝と原子力発電の諸問題」は当初、4人のシンポジストの発表を予定していましたが、西尾正道さん（北海道がんセンター名誉院長）が体調不良のため発表できなくなり、宮尾正大さん（室蘭工業大学名誉教授）、三木信香さん（子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会 共同代表）、澤井正子さん（核燃サイクル阻止1万人訴



シンポジストの宮尾正大さん(右)、三木信香さん(左)、澤井正子さん(中) = 9月24日



シンポジウムの司会は松崎道幸さん(左)と佐原若子さんが担当

訟原告団運営委員)の講師から発表を受けて、その後、活発な質疑応答がされました。

閉会全体会では、まず前日の若手交流企画の報告と今後「ABC for Peace」(Action and Bridge by healthCare workers for Peace 平和の一步=いっぽ

プロジェクト)として活動をスタートさせることが力強く報告されました。つづいて2日間のまとめ(中川武夫 PANW 代表世話人)のあと、滝沢章さんがつどいアピール案を提案、最後に武井弥生現地副実行委員長が閉会あいさつを述べて、午後1時に閉会しました。

今回、展示として① 福山桂子さん(広島出身、小児科医)の陶芸作品 ② はだしのゲンをひろめる会(石川県) ③ 北海道ノーモア・ヒバクシャ会館 ④ 非核の政府を求める北海道の会にパネルや出版物で活動を紹介してもらい、いずれも好評でした。

心配されたコロナ感染の爆発はなく、参加者数も目標の200名にほぼ近づいたことや、内容的にも「充実していた」との感想が多数寄せられました。特筆すべき点として準備段階から、若手医療者と学生部会が合同して交流企画を開催、前述した後継者育成プロジェクトを始動させたことが挙げられます。

お忙しいなか講師や演奏を引き受けていただいたみなさん、全国各地から参加されたみなさん、カンパやメッセージを寄せていただいたみなさん、そして裏方をつとめてくださった保団連と道民医連の要員のみなさん、みなさん方のお力添えがなければ、今回の成功はありませんでした。紙面をお借りして心より御礼を申し上げます。

(現地実行委員会事務局長 塩川哲男)



閉会あいさつをする
武井弥生副実行委員長

今回の反核医師のつどい開催に際して、会員28名から合計390,000円の募金が本会に寄せられました。心より御礼申し上げます。

第35回総会で決まった事項

(2023年7月22日、北海道民医連会館＋オンライン併用)

2022年度活動報告と2023年度活動方針

1. 2022年度活動報告(主なもの、2022/4-2023/3、順不同)

- (1)北海道原爆死没者追悼会に会員2名が参加(22年8月6日、ホテルノースシティ、札幌)
- (2)会報の発行 第67号(22年9月29日)、第68号(23年3月31日)
- (3)拡大運営委員会を1回(22年9月29日)行なった(道民医連会館)。
- (4)核戦争に反対する医師の会(PANW、全国)第18回全国大会に塩川事務局長が参加(22年6月12日、ネット)。同常任世話人会に塩川事務局長が参加(22年5月15日、22年8月21日、22年12月18日、ネット)
- (5)第32回核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい in 兵庫に塩川事務局長(現地)、平野代表委員、水尾仁志先生、小内ゆい先生、滝沢章先生(以上ネット)が参加(22年9月24-25日)
- (6)「泊原発を再稼働させない・核ゴミを持ち込ませない北海道連絡会」の全体会議に塩川事務局長、平野会長代行*が参加(22年4月16日、8月7日、12月18日*、23年2月19日)。
- (7)フクシマから12年、原発と核ゴミを考える3.11集会に川島亮平代表委員、塩川事務局長、西尾正道先生、鈴木隆司先生が参加(23年3月11日、北海道自治労会館)
- (8)被爆体験を聴く会をオンラインで道南勤医協と共催(22年7月23日)
- (9)2023年秋の第33回反核医師のつどいを北海道で開催することを受諾し、実行委員会を3回開催(22年12月13日、23年1月26日、3月2日)

2. 2023年度活動方針と事業計画

【活動方針】

- (1)核保有国が核兵器廃絶に後ろ向きななか、核兵器禁止条約が発効した情勢のもと、全道の医師・歯科医師・学生のなかに「核兵器と核発電所(原発)は21世紀の早い時期になくそう」の世論を高め、ひきつづき会員の拡大につとめる。とくに後継者となる若い層を重視しよう。
- (2)全国の核戦争に反対する医師の会(PANW)に結集し、IPPNW(核戦争防止国際医師会議)やICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)の活動に協力する。

- (3)核戦争に反対する他団体との共同をつよめ、活動の輪を広げる。
- (4)被ばく者の健康管理に協力する。
- (5)憲法9条改悪の動きに反対し、「医療九条の会・北海道」と連帯して活動する。
- (6)あらたな被ばく者を生み出しうる原発の再稼働や核のごみ持ち込み、さらには福島汚染水の海洋放出を許さず、原発のない社会をめざす。

【事業計画】

- (1)原爆死没者追悼会など各種イベントへの参加・代表派遣
- (2)第33回反核医師のつどい in 北海道(9月23、24日)を成功させる
- (3)会報の発行 年2回(9月、3月)
- (4)ホームページの定期的更新と充実
- (5)オンラインも活用した講演会・学習会の開催

2023年度役員・名誉会員

【会長代行】

平野 哲夫(市立札幌病院)

【代表委員】

伊古田明美(勤医協中央病院、札幌市)
大倉 秀顕(北愛歯科クリニック、札幌市)
川島 亮平(勤医協札幌西区病院)
鈴木 頌(札幌市在住)
武井 弥生(余市協会病院地域医療国際支援センター)
芳賀 千明(道北勤医協一条通病院、旭川市)
松崎 道幸(道北勤医協ながやま医院、旭川市)
吉岡 猛(道東勤医協釧路協立病院)

【事務局長】

塩川 哲男(勤医協札幌西区病院)

【事務局次長】

福原 正和(札幌市医師会夜間急病センター)

【監事】

嶋本 義雄(勤医協中央病院、札幌市)
峯廻 攻守(札幌西円山病院)

【名誉会員】

上野 武治(北大名誉教授)
福地 保馬(北大名誉教授)

(五十音順、敬称略、いずれも再)

2022年度決算報告と2023年度予算

1. 2022年度決算報告

収 入

	22年予算	22年決算	21年決算	20年決算
前 年 度 繰 越	597,184	597,184	579,008	432,076
会 費	550,000	582,500	543,000	499,500
雑 収 入 (募 金 等)	10,000	97,541	31,117	67,509
銀 行 利 息	0	0	0	0
合 計	1,157,184	1,277,225	1,153,125	999,085
つ ど い 基 金	79,534	79,534	79,534	

支 出

	22年予算	22年決算	21年決算	20年決算
総 会 費 用	60,000	50,385	57,370	0
印 刷 費	270,000	191,950	321,750	256,900
郵 送 事 務 費	100,000	69,600	86,404	85,810
振 込 手 数 料	16,000	19,416	15,224	16,268
渉 外 費	80,000	98,196	75,193	61,099
つ ど い 補 助	0	23,330	0	0
予 備 費	631,184	0	0	0
合 計	1,157,184	452,877	555,941	420,077

収支決算

	22年決算	21年決算	20年決算	19年決算
収 入 合 計	1,277,225	1,153,125	999,085	1,299,576
支 出 合 計	452,877	555,941	420,077	867,500
次 年 度 繰 越	824,348	597,184	579,008	432,076
つ ど い 基 金	79,534	79,534	79,534	79,534

財産目録

	22年決算	21年決算	20年決算	19年決算
現 金	215,000	1,100	106,200	0
郵 便 局	679,863	666,599	543,323	502,591
銀 行	9,019	9,019	9,019	9,019
合 計	903,882	676,718	658,542	511,610

2. 2023年度予算

収 入

	23年予算	22年予算	21年予算	20年予算
前 年 度 繰 越	824,348	597,184	579,008	432,076
会 費	550,000	550,000	550,000	500,000
雑 収 入 (募 金 等)	30,000	10,000	10,000	10,000
銀 行 利 息	0	0	0	0
合 計	1,404,348	1,157,184	1,139,008	942,076
つ ど い 基 金	79,534	79,534	79,534	79,534

支 出

	23年予算	22年予算	21年予算	20年予算
総 会 費 用	50,000	60,000	60,000	10,000
印 刷 費	270,000	270,000	270,000	270,000
郵 送 事 務 費	85,000	100,000	100,000	100,000
振 込 手 数 料	20,000	16,000	16,000	20,000
渉 外 費	80,000	80,000	80,000	80,000
つ ど い 補 助	0	0	0	0
予 備 費	899,348	631,184	613,008	462,076
合 計	1,404,348	1,157,184	1,139,008	942,076

【つどい関連決算】

	22年決算	21年決算	20年決算	19年決算
前 年 繰 越	79,534	79,534	79,534	0
募 金 合 計	0	0	0	238,000
I P P N W	0	0	0	0
つ ど い	0	0	0	158,466
剰 余 金 (残 金)	79,534	79,534	79,534	79,534
単 年 度 収 支	79,534	79,534	79,534	79,534

*コロナ禍で集会出張なし

この秋、「反核医師のつどい」を成功させ、
反核・反原発の大きなつどいを
北海道からつくり出そう

2022年2月24日にロシアによるウクライナ侵攻が始まって1年5ヶ月が経過しましたが、今も両国での激しい戦闘が続いています。日本国内ではこうした情勢を口実として、岸田政権は「安保3文書」を閣議決定し、かつてない大軍拡路線をおし進めようとしています。

2007年7月に国連で採択された核兵器禁止条約（TPNW）は、2020年10月、発効に必要な50ヶ国の批准に達し、2021年1月22日発効しました。現在、68ヶ国の批准と92ヶ国の署名がされていますが、残念ながら日本政府は核保有国や他の核依存国とともに、一貫して禁止条約に背を向けています。今年11月には第2回締約国会議がメキシコが議長国となってニューヨークでの開催が予定されています。日本政府には少なくともオプザーバー参加することを求めます。

2020年春に開かれるはずだった核不拡散条約（NPT）再検討会議は新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延のため何度も延期となり、2022年8月に開催、しかし2015年につづいて最終文書を採用できずに終了しました。今年5月には被爆地広島でG7サミット（主要国首脳会議）が開催されましたが、被爆者が望んだような成果は生み出せず、核抑止政策を正当化するものでした。

原子力発電所の再稼働や運転期間の延長を盛り込んだ「GX（グリーン・トランスフォーメーション）実現に向けた基本方針」も多くの国民の反対を押し切って昨年12月に閣議決定されました。この北海道では核のごみ（高レベル放射性廃棄物）の最終処分場候補地として寿都町と神恵内村が立候補しており、文献調査から概要調査へ進む可能性があります。人類の終焉まで最短の残り90秒とした「終末時計」も指摘するように、核兵器と核発電所（原発）をめぐる、危険で重大な情勢が到来していると言わざるをえません。

ことし9月23・24日には、第33回「核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求め医師・医学者のつどい」（反核医師のつどい）が10年ぶりに北海道札幌市で開催されます。この反核医師のつどいを大きく成功させ、反核・反原発運動のうねりをこの北海道からつくり出そうではありませんか。

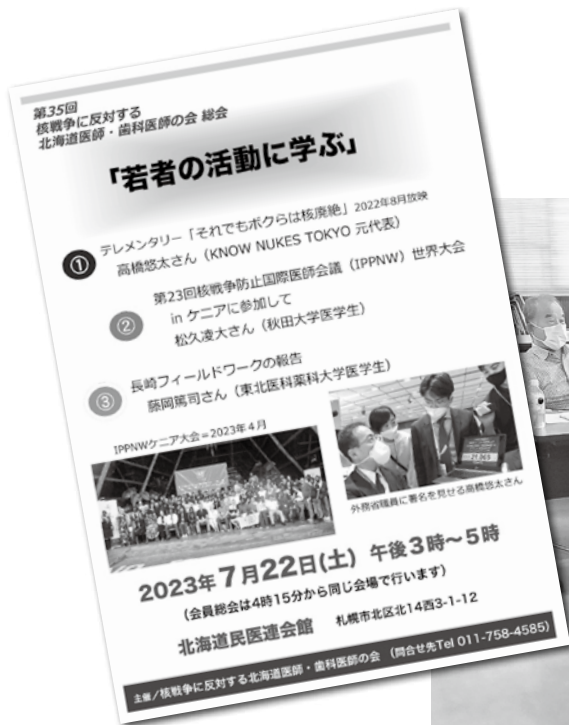
2023年7月22日

核戦争に反対する北海道医師・歯科医師の会 第35回総会

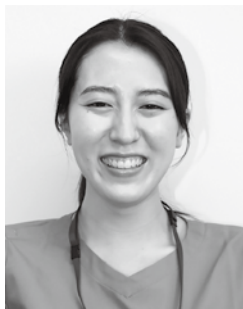
第35回総会（2023/7/22）にメッセージを寄せていただいた団体

◇一般社団法人 北海道被爆者協会 会長 廣田 凱則^{よしのり}

（敬称略）



原水禁世界大会2023に参加して



勤医協中央病院
1年目研修医

紺野 滯^{れい}

2022年に始まったロシアによるウクライナ侵攻。当時、私は医学生で、実習の休憩時間にニュースで戦況を確認していました。ある時、同級生に、なぜ自分に関係のない争いに興味があるのかと問われ、ウクライナ侵攻が「関係のないこと」と到底思えなかった自分は衝撃を受けました。この経験で、私たちの世代は「平和ばけ」し、平和への努力の必要性を自覚しにくい環境にあると気がつきました。その風潮で、戦争が起こる日が自分たちのすぐ近くまで迫ってきている気がしたのです。しかし、私はその同級生に根拠を持って反論できず、自分の無知を痛感し、これが原水禁世界大会参加への原動力となったと思います。

実際に長崎の会場に着いて周りを見渡した時、想定よりもはるかに大勢の参加者がいて、その多くが核兵器廃絶・戦争反対という同じ思いを持っていることに圧倒されました。それまで、私が声を上げた

ところで世界は変わらない、と諦めていましたが、現地で多くの人のエネルギーを感じ、1人の声も集まれば現状を変える力になるかもしれないと思えました。

印象的だったのは、核抑止論の脆弱性についての話です。これまで、核抑止論は究極的な安全保障であるという考え方に違和感を持っていましたが、原因がわかりませんでした。しかし、大会の中で、核抑止論はそれが機能するか失敗に終わるかの経験的証拠がなく、仮説に過ぎないのだと気がつきました。この理論は、核兵器を使用する可能性を仄めかすことで信憑性を高めるため、機能しなくなったとき、核戦争になるリスクが非常に高いのです。核抑止論に平和な未来を期待するのは非常に危険なことだと思いました。

私はこれまで無知であることを恥じ行動できずにいましたが、原水禁に参加し、大切なのは学びを継続することであると気付かされました。思いを発信することは怖いですが、これからは勇気を出して共に戦争のない未来を作り上げる仲間を増やしたいと思えます。

核惨事の脅威「増大」に警鐘 医学誌100誌超が異例の共同論説

【時事通信＝8月3日配信】英医学誌ランセットなど世界の100を超える医学誌が8月3日、核兵器による惨事の脅威が「重大で、かつ増している」と警告した上で、保有国に「われわれを滅ぼす前に核兵器を廃絶しなければならない」と緊急行動を促す異例の共同論説を発表しました。核を巡っては現在、ウィーンで核拡散防止条約（NPT）再検討会議の準備委員会が開催されています。

論説は「世界に約1万3000発ある核兵器のうち250発が使用されただけで、1億2000万人が死亡す

る恐れがある」と指摘。世界の医療関係者に対し、市民や指導者に核兵器がもたらす「公衆衛生への重大な危険」について警鐘を鳴らすよう呼び掛けました。

さらに、昨年開かれたNPT再検討会議が米ロの対立で決裂したことを念頭に「進展はがっかりするほど遅い」と強い不満を表明しました。

ランセットのほかに共同論説に参加したのは、米国のニューイングランド・ジャーナル・オブ・メディスンやJAMA、英国のBMJなど。

註) ランセットに掲載された論説全文は Abbasi K, Ali P, Barbour V, et al. Reducing the risks of nuclear war – the role of health professionals [published: August 01, 2023]. Lancet. 2023;S0140-6736(23) インターネットで無料で読むことができます。

医学誌のリストは <https://www.bmj.com/content/full-list-authors-and-signatories-nuclear-risk-editorial-august-2023>。日本の医学誌は残念ながら参加していないようです。

自分にできること、 自分にしかできないこと

滝 沢 しょう 章

「人はお互いを補いあって生きていく それは幸せなことだから」

自分の本当の気持ちはなんだろう、と考えることがある。たとえば、医師として苦しむ患者さんに寄り添いたい、と言ってみる。それはそれで嘘ではないのだが、もう疲れた、お腹が空いた、呑みに行きたい、好きなゲームをしたい・・・そういう気持ちの方が、偽りのない本当の気持ちなんじゃないか、と感ずることがある。患者さんに寄り添いたいなんて、偽物の気持ちなんじゃないか、自分はなんてダメな医療者なんだろう、と無意味に落ち込んでみたりする。

平和を願う気持ち、反核医師の会に参加している自分の気持ちはどうだろう。私は勤医協に就職するまで、平和のための活動や政治を変えるための行動をしてこなかった。そもそも政治のことは少し苦手だ。「政治学とは何かと対峙するための方法を与えるもの」だとしたら、政治がある限り戦争はなくなるんじゃないか、なんて何もしていないくせに偉そうに考えた気になってしまう。平和を願う気持ちも、偽物なのだろうか。

自分が嫌になることの多い日々だが、医師になってから、これは偽りのない本当の気持ちだ、と感ずられる瞬間もいくつかあった。「自分は生きていても意味がないから、いつ死んでもいいんだ」という患者さんを前に、涙を堪えながら面談した時。同期の研修医の何気ない一言に心から救われた時。失敗して悲しんでいる同期に、自分を責めなくていいと声をかけた時。北海道被爆者追悼会に参加して、確かに心が震えた時。平和のために行動し続ける人たちに出会って、この想いは本物だと信じられた時。そういう瞬間を経て、少しずつだが、自分を疑うための材料ではなく、患者さん、周囲の人たち、そして平和のために、自分にできることを探したい、という気持ちが生まれてきた。

研修医なんて、ほとんど何もできなくて、自分に絶望することばかりだ。でも、まだ医学生だったころに比べたら、医学部に入るために勉強していたころに比べたら、漠然と医師を夢見ていたころに比べたら。医師として患者さんの前にいる

自分は、間違いなく歩みを進めている。あの時のままなら絶対にできなかったことが、今ならできる。今よりプリミティブだった自分を忘れずにいられたら、進んできた道のりの意味が見えてくる。

この世界も、大切なものを見失ってしまいそうになることばかりだが、それでもきっと平和な世界へと前進しているはずだ。歴史の中で、暴力の犠牲になった人たち、平和のために努力し続けてきた人たちが刻んだ道を決して忘れない。そして、すべてをかけて平和のために行動している人たち、偽りのない言葉を放ち続けている人たち、痛みを受け止めている人たちとともに、私も本気で平和のために歩みたい。自分のことをどう思っているか、自分がどんなに信じられなくても、行動することで気持ちを本物にしていく。

「戦争反対の言論は、達成感に乏しく次第にアピール力を失いがちである」「浅薄な眼には戦争はカッコよく平和はダサイと見えるようになる」。人は何の変哲もない日常よりも、戦争のような劇的で大きな物語に惹かれてしまうところがある。だから、抵抗し続けなければならない。わかりやすい物語にはならない小さな日常に光をあて続け、「わかりにくく見えにくい平和を維持するための努力、しなやかでゆらぎのある秩序を維持し続ける努力」をしていきたい。

生命は自分自身だけでは決して完結できず、互いの不足を補いあう「欠如の原理」に貫かれているという。もしそうなら、どんな存在にも、必ず自分にしかできないことがある。そしてそれが、いつかどこかで幸せにつながっていく。

「その幸せを分け合って」、世界が平和に向かうことを信じている。

(勤医協中央病院2年目研修医)



ウクライナへの侵攻に反対してスタンディング、マイクを持っているのが筆者
=2022年4月10日、札幌駅南口

会員の動き (2023年3月～2023年9月)

【入会】

岡本 哲軌 整形外科 みらい整形ペインクリニック (苫小牧市)
(敬称略)

会員数は9月末現在で134名となっています。また、医科は130名、歯科は4名となっています。

活動日誌 (2023年3月～2023年9月)

【3月】

- 2日 反核医師のつどい2023 第3回実行委員会 (道民医連、Zoom 併用、以下同じ)
- 11日 フクシマから12年、原発と核ゴミを考える3.11集会 (川島亮平代表委員、塩川事務局長、西尾正道先生、鈴木隆司先生、北海道自治労会館) 会報第68号発行

【4月】

- 1日 反核医師のつどい2023 第4回実行委員会
- 1日 第42回事務局会議 (道民医連)
- 29日 第33回泊原発を再稼働させない・核ゴミを持ち込ませない北海道連絡会全体会議 (塩川事務局長、自由学校「遊」)

【5月】

- 14日 全国反核医師の会常任世話人会(塩川事務局長、ネット参加)
- 19日 反核医師のつどい2023 第5回実行委員会

【6月】

- 11日 全国反核医師の会第19回全国大会 (塩川事務局長=東京、福原事務局次長、鳥井事務局員=ネット参加)
- 28日 反核医師のつどい2023 第6回実行委員会
- 29日 第66回運営委員会 (道民医連)

【7月】

- 9日 第34回泊原発を再稼働させない・核ゴミを持ち込ませない北海道連絡会全体会議 (塩川事務局長、札幌エルプラザ)
- 22日 第35回総会 (道民医連、Zoom 併用)
- 28日 反核医師のつどい2023 第7回実行委員会

【8月】

- 6日 北海道原爆死没者追悼会 (川島代表委員、塩川事務局長、福原事務局次長、滝沢事務局員、ホテルノースシティ、札幌市)

20日 全国反核医師の会常任世話人会(塩川事務局長、ネット参加)

23日 反核医師のつどい2023 第8回実行委員会

【9月】

14日 反核医師のつどい2023 第9回実行委員会
23-24日 第33回核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい in 北海道 (ANA クラウンプラザホテル札幌、Zoom 併用)

事務局から

▼年会費の未納がある先生方に振込用紙を同封しています。どうぞよろしくご協力ください (カンパも歓迎します)。

▼住所や勤務先、メール・アドレスが変わった場合はぜひ本会にもご連絡ください (Eメールは本会ホームページからどうぞ)。

編集後記

▼会報第69号をお届けします。今回は「反核医師のつどい in 北海道」のため、発行が遅れましたことをお詫びいたします。

▼寝耳に水のイスラム組織ハマスとイスラエルの軍事衝突。パレスチナへのイスラエル民間人連れ去り。ガザ地区への大規模ミサイル攻撃と封鎖による深刻な電力と水の危機。双方で多数の民間人の犠牲がでており、日々増え続けていることに身震いする。歴史的に作られた両者の対立。解決が容易でないことは歴史が証明しているが、1993年のオスロ合意で共存の兆しが見えた時期もあった。双方の指導者の歩み寄りと適切な国際社会の仲介が必要だ。イスラエル一方的支援の米国でなく、平和憲法を有する我が国こそがその役割に相応しい。(H)

▼10年ぶりの反核医師のつどい開催、1年近くにわたり準備してきましたが、実行委員会も当日もオンライン併用としたのが前回と最も異なる点だったのかもしれませんが。ただし「つどい」ことが1987年以来的の原点であり、オンラインは対面を補完するものであると改めて感じました。来年は諸矛盾の集中する沖縄で全国の仲間と集えたらと思います。(S)

規 約

1989年6月4日制定
1990年6月10日一部改正
1994年7月10日一部改正
1995年6月11日一部改正
2001年6月24日一部改正
2015年7月4日一部改正
2020年11月1日一部改正

1. 本会は、「核戦争に反対する北海道医師・歯科医師の会」(略称「北海道反核医師・歯科医師の会」、英名 Hokkaido Physicians and Dentists Against Nuclear War) と称し、事務所を札幌市内におく。
2. 本会の目的は、核戦争に反対し、核兵器廃絶のために、ヒューマニズムにもとづき、医師として可能な限り努力を払うことにある。
3. 本会は、会の目的に賛同する全道の医師・歯科医師によって構成する。医学生および歯学生は準会員とする。
4. 本会は、次の事業を行なう。
(イ) 他都府県の同趣旨の医師の会と連携を保ちつつ、「核戦争防止国際医師会議 (IPPNW)」の活動に協力する。
(ロ) 核兵器完全禁止署名への協力。

(ハ) 原子力発電に反対し、原発のない社会をめざす活動に協力する。

(ニ) そのほか、核戦争の悲惨さを訴え、核兵器完全禁止をめざすために研究会、講演会、出版などの活動を行なう。

5. 本会は、特定の政党または宗派のための活動は一切行わない。
6. 本会に、会長と若干名の代表委員と監事および事務局長、事務局次長をおく。会長、代表委員と事務局で運営委員会をつくり、規約に従って活動を行なう。
7. 本会に功績のあった会員は名誉会員となることができる。名誉会員は運営委員会で推薦し、総会の承認を受けるものとする。名誉会員の会費は免除する。
8. 本会の会費は、会費および寄付金をもって充てる。会費は年額5,000円、準会員は1,000円とする。ただし、年度後半の入会の初年度会費は半額とする。会計年度は4月1日から翌年3月31日までとする。
9. 本会は、年1回以上、総会を行なう。総会の議決は出席者の過半数をもって行なう。
10. 本規約の変更は総会で行なう。